

サマリー

本報告書は、関西学院大学経営戦略研究科において2014年度に開講された授業についての学生及び教員による評価アンケート結果をまとめたものである。授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2014年度に開講された349講義である。2014年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,002人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は2,704人であり、アンケート調査の回答率は90.1%であった。

学生による評価アンケートは、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10と設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」についての質問となっており、5段階評価で回答することとなっている。

経営戦略専攻企業経営戦略コースの学生の今回のアンケート結果について分析すると、2014年度の全科目群の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のいくものでしたか。」のスコアは、通年で4.41、春学期が4.40、秋学期が4.43であり、十分に高い水準であると考えられる。いずれのスコアも過去最高のスコアを記録している。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2013年度も通年で4.74と高い水準を保っている。担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して低い状況が続いてはいるが、前年度に比べてスコアは上昇しており（問10:4.00⇒4.09、問11:3.92⇒4.41）、改善の兆しが見られる。

次に、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群のデータを分析する。コア科目群は、通年の満足度が過去最高(4.26)を記録している。特に設問6の前年度からの伸びが著しく(3.91⇒4.12)、学生の内容理解の水準を考慮した授業を構成した成果が現れていると推測される。その他にも設問4、設問7の伸びが高く(4.25⇒4.42、4.05⇒4.22)、授業資料や課題が充実してきていることが伺える。ベーシック科目群およびアドバンスト科目群については、ほぼ平均と同等のスコアとなっている。設問13の満足度は、それぞれ4.32、4.49であり高い水準にあると言える。設問別に見ても、特に目立った伸びや落ち込みは見られず、現段階では大きな問題は認められない。

学生満足度に関しては、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問 12 の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問 13 の「この授業は全般的に満足の内々のものでしたか」、設問 14 の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第 3 位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価については、全般に見てみると、②の「改善・工夫した方がよい点」について、当専攻で授業を担当して初めてあるいは間もなくの教員の中には多くの点を挙げ、逆に本研究科での教歴が長い教員には「特になし」という記述が多いという傾向はあるものの、「4 年目にして、やっと目標の授業が達成できた」「今年は〇〇をしてみた」など毎年工夫を重ねている教員が多い。今後も、他の教員の②の「実施してよかった点」を参考にするなど教員間で情報共有して改善できることはあると考えられる。もちろん、個々の学生による授業評価アンケートの結果に基づいた改善を重ねる努力も必要であろう。

経営戦略専攻国際経営コースの学生の今回のアンケート結果について分析すると、通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移しておる、2014 年度は 2013 年に比べて同程度である。約半分の項目で 2014 年度は 2013 年度を上回り、それ以外の項目で若干下回った。しかし、多くの質問項目の平均が 4 点台後半の高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというところ「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが 4.0 を超えているという「高い評価」結果を得ている。さらに、多くの質問項目の平均点が 4.5 を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去 2 年との比較をしてみると一昨年 2013 年度は 2012 年度よりもすべての項目で上回ったが、2014 年は平均すると 2013 年度レベルと同じであろう。背景には、継続的な教員の FD の努力が伺えるが、学生数が少人数のクラスのため丁寧で応答型の教育手法のため内容が学生に十分に伝わるクラスが多いので満足度が高く推移していると考えられる。また、近年の学生の国籍が多様化していること、多様な意見が集う討論形式の授業が多いので学生のクラスへの貢献と理解度の向上が工夫されているので満足度が高いとも考えられる。今後の評価の傾向を注視すべきであるが、この高い満足レベルを維持したいと考える。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、2013 年度から 2014 年度にかけて、質問項目 1 「The course met the objectives and topics described in the syllabus」においては

4.72、質問項目 3 「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては 4.67、質問項目 2 「The instructor was well prepared for the classes」が 4.65、というトップ 3 の高評価点は変わらない。これらの教員に対する学生の高い評価は、教員全体が継続的な教育の向上を目指した結果の反映であると考えられる。次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目 9 「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」が 4.65、質問 14 「Course content were highly relevant and useful for your future career」がともに 4.62、設問 13 「Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students」が 4.57 質問、6 「Instructor's interest in whether students learned was high」が 4.56 であった。一方、比較的低い評価であったのは、質問 7 「The amount of work assigned was reasonable」の 4.42、質問 4 「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」が 4.43、質問 11 「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が 4.44、質問 10 「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が 4.45 であった。上記質問 7 に関しては、宿題が多すぎるのかそれとも少なすぎるのか疑問が残る。質問 4 の結果は、2013 年度も低レベルであったが、学生が実際にテキストを購入し事前に準備しているのかとの疑問が起こる。質問 10、質問 11 も 2013 年度も比較的低評価であったが、コースに対する学生の姿勢に対する評価である。これらの質問からわかるのは、学生の勉学意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、全体では比較的低いレベルである点である。昨年度も指摘したが、学生の勉学意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価がこのような結果になったのではないだろうか。

経営戦略専攻国際経営コース所属教員による担当科目の自己評価からは、授業評価の結果が秀でた科目では、昨年同様、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコースなどが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの昨年同様の結果が見受けられた。一方で、今後の改善点としては、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良かったと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変である点などが注目される。

会計専門職専攻の学生の今回のアンケート結果について分析すると、専攻平均値は、2007 年度秋学期まで上昇し続けた後、2008 年度秋学期まで 4.4 ないし 4.5 という値を記録し、その後も、2011 年度まで 4.3 から 4.5 で順調に推移してきた。2012 年度から 2013 年度春学期には 4.6 となり、更に、2013 年度秋学期から 2014 年度春学期、秋学期は 4.7 と、総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、過去、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみられたが。この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が圧倒的に多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられる。もっとも、2012年度以降はその様な傾向は見られていない。今後、この傾向が見られる場合には科目群（コア、ベーシック、アドバンスト）ごとの評価などを踏まえた取り組みを検討する必要があるかもしれない。

科目群ごとの評価に目を向けると、まず、【設問 1】から【設問 4】の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はないが、ベーシック科目の2014年秋学期の評価が4.7と低下しているのが気になるが、著しいものではない。

【設問 5】から【設問 8】については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向と状況にある。したがって、前述の専攻全体での【設問 5】から【設問 8】の評価が他の設問に比して相対的に低いのは、コア科目の評価が起因していることが分かる。

コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこで、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、企業会計コースの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂によって増加している傾向にあらう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学時点での会計知識の水準が影響している可能性も想起される。

以上、専攻全体に係る【設問 1】から【設問 4】の評価より、学生が教員の授業内容の意義を理解していることが示唆されることから、会計専門職専攻開設以来、教育面での一定の成果が維持されていることが説明できるであらう。ただし、【設問 5】から【設問 8】の評価からは、特にコア科目について、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の質の確保と時間配分、課題の質と量については今後も継続的に注意していくとともに、効果的かつ効率的な方法で授業が実践されることが望まれる。例えば、②学生自身の取り組みで述べる、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも考慮されてもよいであらう。もっとも、基礎的教育であるがゆえの課題の量について起因する部分はやむ得ない面もあらう。

まず、コア科目に関しては、基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれ、知識の定着を図るべく、小テストや中間テストの実施、宿題やレポートなどの課題の賦課といった取組みが行われている。学生による授業評価アンケートの【設問 12】（この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか）について、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっているが、この点は、上記を踏まえると、やむを得ない部分でもあらうが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待し

たいところである。

理論系の科目と実践（実務）系の科目が含まれるベーシック科目では、コア科目にみられる傾向に加えて、事例・実務に則した講義を行うことや、双方向な講義を実践する取組みがみられる。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得を図ることに最も力を入れているとの回答が多くなり、また、実践性の涵養を図ることに最も力を入れたとの回答が増えている。さらに、双方向の講義を実践する取組みが多く行われている。なお、双方向性への取組みは、学生への問いかけ、課題発表、グループワーク、グループディスカッションなど様々である。

学生による授業評価アンケートでは、【設問 10】（この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか）と【設問 11】（この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか）の値が他の設問に比して低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着に重きを置き、復習を重視した取組みが行われている傾向にあり、予習、さらには自発的な学習を促す取組みが不十分かもしれない。アドバンスト科目では、双方向性への取組みによってこの点を改善することが図られているかもしれないが、予習・復習、課題、さらに学生の問題意識を喚起し自発的な学習を促す取組みを図っていくことは、1つの課題といえるであろう。

教員による自己評価では、コア科目では、小テスト・中間テストの実施や宿題・レポートなどの課題を課すことの回答が多く、これは、【設問 1】を踏まえた基礎的・体系的知識の定着を図るために実施されているものと考えられる。また、レジュメの作成といった教員独自の教材を開発していることも見受けられる。ベーシック科目では、コア科目にみられる傾向に加えて、双方向な講義を実践することや事例・実務に則した講義を行うとの回答が増えている。アドバンスト科目では、一定水準の知識・能力の修得を図るために、双方向な講義の実践や演習を組み込むといった取組みがみられるとともに、事例・実務を踏まえ、これに則した講義を実施しているとの回答が増えているものと考えられる。担当科目について改善・工夫をした方がよい点については、コア科目とベーシック科目では、解説・演習などの時間配分や教材の改善、双方向性の導入といった点が挙げられているが、一定程度の傾向は見受けられない。これに対して、アドバンスト科目では、一定水準の知識・能力の修得という点を踏まえ、講義内容の質（詳細さ）と量（範囲）のバランスの改善を挙げた回答が多く、次いで、時間配分と教材の改善を挙げた回答が多くなっている。このような講義の内容や構成、教材、講義手法の改善・工夫に加えて、学生の多様性への配慮や学生の理解度に生じている差への対応といった講義の実施において苦慮している旨の回答が、アドバンスト科目で多くみられる。

目標の達成度に関しては、コア科目では5科目、ベーシック科目では10科目で、半分程度しかもしくはあまり達成できなかったとの回答がある。その多くは、教員が求める修得水準まで達していない学生がいることを理由として挙げている。これに対して、アドバンスト科目では、講義内容の質と量のバランスや学生の理解度の差への対応を、講義期間中にも適時、適切にとりながら目標を達成しているもの言えよう。

1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学は「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げている。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2014年度に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、エグゼクティブサマリー、2014年度授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、アンケート結果（アンケート授業別集計結果）およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。

2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏集中）・秋学期（第3クォーター、第4クォーター、冬集中）の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

（1）実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2014年度に開講されたすべての講義である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目（複数クラス開講分を含む）は、349講義（春学期178講義、秋学期171講義）である。その内訳は、経営戦略専攻が194講義（企業経営戦略コース126講義、および国際経営コース68講義）、会計専門職専攻が155講義であった。

（2）回答者、回答率等について

2014年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,002人（延べ人数、以下同じ）で、そのうち、春学期が1,656人、秋学期が1,346人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は2,704人（春学期1,482人、秋学期1,222人）であり、アンケート調査の回答率は90.1%（春学期89.5%、秋学期90.8%）であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は1,958人（企業経営戦略コース1,583人および国際経営コース375人）で、そのうち、春学期は1,083人（企業経営戦略コース870人および国際経営コース213人）、秋学期は875人（企業経営戦略コース713人および国際経営コース162人）であった。アンケート調査の回答者数については、1,783人（企業経営戦略コース1,441人および国際経営コース342人）であった。そのうち、春学期は987人（企業経営戦略コース797人および国際経営コース190人）、秋学期は796人（企業経営戦略コース644人および国際経営コース152人）であった。回答率は91.1%（企業経営戦略コース91.0%および国際経営コース91.2%）である。そのうち、春学期は91.1%（企業経営戦略コース91.6%および国際経営コース89.2%）、秋学期は91.0%（企業経営戦略コース90.3%および国際経営コース93.8%）であった。

また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1,044人（春学期573人、秋学期471人）で、アンケート調査の回答者数は921人（春学期495人、秋学期426人）あり、その回答率は88.2%（春学期86.3%、秋学期90.4%）であった。

（3）実施期間について

授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施してきた。2014年度の授業評価アンケートの実施期間だが、各クォーター開講科目については、原則として下記期間の7週目授業時に実施した。ただし、補講を実施した科目については、翌週の最終授業時に実施した。また、各集中講義開講科目については、下記期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター開講科目：2014年5月20日（火）～5月26日（月）

第2クォーター開講科目：2014年7月15日（火）～7月21日（月）

夏集中講義開講科目：2014年8月2日（土）～8月25日（月）

第3クォーター開講科目：2014年11月3日（月）～11月11日（火）

第4クォーター開講科目：2015年1月14日（水）～1月20日（火）

冬集中講義開講科目：2015年2月3日（火）～3月1日（日）

（4）アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数14～15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の3つの設問からなっている。
 1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
 2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への

質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2) 改善・工夫をした方がよい点」

3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

(5) 集計

2014年度の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価アンケート

(1) 概観

以下では、2014年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、同じ調査票が使用されている2009年度以降の結果と比較して分析していく。表1から表4は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は2009年度から2014年度の数字を平均したものである）。

2014年度の全科目群（表1）の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のいくものでしたか。」のスコアは、通年で4.41、春学期が4.40、秋学期が4.43であり、十分に高い水準であると考えられる。いずれのスコアも過去最高のスコアを記録している。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2013年度も通年で4.74と高い水準を保っている。担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して低い状況が続いてはいるが、前年度に比べてスコアは上昇しており（問10:4.00⇒4.09、問11:3.92⇒4.41）、改善の兆しが見られる。

表 1 : 全科目群 (回答の平均値)

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
2013	4.55	4.57	4.71	4.36	4.45	4.13	4.19	4.14	4.50	3.99	3.83	4.08	4.31	4.39
2014	4.57	4.57	4.74	4.42	4.48	4.23	4.32	4.22	4.57	4.06	3.87	4.13	4.40	4.46
平均	4.52	4.56	4.71	4.37	4.45	4.16	4.21	4.18	4.52	4.01	3.85	4.09	4.33	4.31

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
2013	4.46	4.49	4.61	4.31	4.37	4.12	4.21	4.16	4.49	4.00	3.94	4.04	4.26	4.32
2014	4.61	4.63	4.74	4.49	4.54	4.33	4.37	4.29	4.60	4.13	4.00	4.20	4.43	4.52
平均	4.56	4.58	4.69	4.42	4.45	4.23	4.29	4.27	4.55	4.05	3.96	4.14	4.36	4.35

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
2013	4.51	4.53	4.66	4.34	4.41	4.13	4.19	4.15	4.50	4.00	3.88	4.06	4.29	4.36

2014	4.59	4.60	4.74	4.45	4.51	4.28	4.34	4.26	4.58	4.09	3.92	4.16	4.41	4.49
平均	4.54	4.57	4.70	4.39	4.45	4.20	4.25	4.22	4.53	4.03	3.90	4.11	4.35	4.33

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンス科目群(表4)のデータを分析する。コア科目群は、通年の満足度が過去最高(4.26)を記録している。特に設問6の前年度からの伸びが著しく(3.91⇒4.12)、学生の内容理解の水準を考慮した授業を構成した成果が現れていると推測される。その他にも設問4、設問7の伸びが高く(4.25⇒4.42, 4.05⇒4.22)、授業資料や課題が充実してきていることが伺える。ベーシック科目群およびアドバンス科目群については、ほぼ平均と同等のスコアとなっている。設問13の満足度は、それぞれ4.32、4.49であり高い水準にあると言える。設問別に見ても、特に目立った伸びや落ち込みは見られず、現段階では大きな問題は認められない。

表2：コア科目群(回答の平均値)

春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
2013	4.50	4.45	4.71	4.29	4.32	3.87	3.97	3.98	4.37	3.90	3.62	3.93	4.16	4.27
2014	4.49	4.52	4.80	4.44	4.32	4.11	4.20	4.10	4.50	4.04	3.66	4.00	4.30	4.40
平均	4.38	4.40	4.65	4.21	4.19	3.87	4.00	3.89	4.35	3.88	3.61	3.79	4.03	4.06

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
2013	4.27	4.24	4.53	4.15	4.17	3.99	4.22	4.19	4.28	3.89	3.72	3.96	4.10	4.23

2014	4.50	4.55	4.75	4.40	4.29	4.14	4.24	4.15	4.49	4.03	3.72	3.97	4.21	4.33
平均	4.44	4.42	4.62	4.27	4.12	3.95	4.13	4.12	4.38	3.96	3.76	3.91	4.10	4.10

通年

年度	設問													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00
2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
2013	4.43	4.39	4.66	4.25	4.27	3.91	4.05	4.05	4.35	3.89	3.65	3.94	4.14	4.26
2014	4.50	4.53	4.78	4.42	4.31	4.12	4.22	4.12	4.49	4.04	3.69	3.99	4.26	4.37
平均	4.41	4.41	4.65	4.24	4.17	3.91	4.05	3.99	4.37	3.92	3.68	3.85	4.07	4.09

表3：ベーシック科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
2013	4.59	4.65	4.75	4.37	4.55	4.18	4.15	4.16	4.52	3.98	3.64	4.05	4.30	4.39
2014	4.55	4.51	4.68	4.31	4.47	4.10	4.27	4.12	4.49	3.99	3.73	4.00	4.30	4.37
平均	4.53	4.58	4.71	4.36	4.48	4.14	4.16	4.16	4.49	4.00	3.74	4.07	4.33	4.31

秋学期

年度	設問													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23

2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
2013	4.39	4.38	4.57	4.18	4.17	3.92	4.03	3.92	4.37	3.85	3.73	3.83	4.10	4.18
2014	4.57	4.57	4.68	4.41	4.52	4.29	4.28	4.26	4.54	4.05	3.90	4.16	4.36	4.43
平均	4.55	4.57	4.70	4.40	4.42	4.17	4.21	4.20	4.49	3.99	3.80	4.12	4.32	4.32

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44
2013	4.50	4.52	4.66	4.28	4.37	4.05	4.09	4.05	4.45	3.92	3.69	3.94	4.21	4.29
2014	4.56	4.54	4.68	4.36	4.50	4.20	4.27	4.20	4.52	4.02	3.82	4.08	4.33	4.40
平均	4.54	4.57	4.70	4.37	4.46	4.15	4.17	4.18	4.49	3.99	3.77	4.08	4.32	4.31

表4：アドバンスト科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
2013	4.55	4.57	4.68	4.41	4.46	4.27	4.35	4.24	4.57	4.07	4.10	4.21	4.43	4.48
2014	4.60	4.62	4.74	4.46	4.56	4.35	4.40	4.33	4.65	4.11	4.02	4.25	4.49	4.54
平均	4.60	4.64	4.74	4.47	4.56	4.36	4.39	4.36	4.64	4.10	4.07	4.27	4.50	4.46

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41

2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
2013	4.56	4.62	4.66	4.43	4.55	4.28	4.31	4.30	4.62	4.12	4.12	4.19	4.40	4.43
2014	4.68	4.71	4.79	4.59	4.65	4.43	4.49	4.37	4.69	4.22	4.18	4.31	4.58	4.66
平均	4.61	4.65	4.72	4.49	4.60	4.37	4.39	4.37	4.65	4.13	4.13	4.25	4.49	4.46

通年

年度	設問													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52
2013	4.56	4.60	4.67	4.42	4.51	4.28	4.33	4.27	4.60	4.10	4.11	4.20	4.41	4.45
2014	4.64	4.66	4.76	4.52	4.60	4.38	4.43	4.35	4.67	4.16	4.09	4.27	4.53	4.59
平均	4.61	4.64	4.73	4.48	4.58	4.36	4.39	4.37	4.64	4.12	4.10	4.26	4.49	4.46

(2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は一般的に満足のいくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

表5：科目ごとの回答の平均値

春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	1	35	3.91	4.18	4.36
経営学	1	30	4.31	4.45	4.69

経営学	2	20	4.44	4.61	4.67
会計学	1	18	4.13	4.20	4.40
経済学	1	15	3.27	4.13	4.13
統計学	1	43	3.98	4.12	4.19
英語コミュニケーション	1	17	3.60	4.38	4.38
英語コミュニケーション	2	18	4.13	4.56	4.50
英語コミュニケーション	2	18	3.71	4.29	4.29

秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業倫理	2	27	3.60	3.76	4.00
経営学	3	9	4.33	4.44	4.56
会計学	2	34	3.96	4.00	4.11
経済学	2	9	4.38	4.75	4.63
統計学	2	6	4.40	4.80	5.00
統計学	3	29	4.33	4.25	4.42
英語コミュニケーション	3	7	2.83	4.50	4.50
英語コミュニケーション	4	17	3.92	4.50	4.56

春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	1	25	4.26	4.04	4.17
人的資源管理	1	32	3.87	4.31	4.41
組織行動		36	3.83	4.38	4.34
マーケティング・マネジメント	1	14	3.14	3.29	3.29
ファイナンス	1	21	3.95	4.53	4.56
テクノロジー・マネジメント	1	26	4.25	4.79	4.67
ベンチャービジネス	1	10	4.00	4.44	4.78
公共経営論	1	11	4.36	4.73	4.73
行動科学		24	4.13	3.96	4.25
会社法		16	4.00	4.43	4.57
上級英語コミュニケーション	1	2	5.00	5.00	5.00

秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	2	18	4.41	3.94	4.13
人的資源管理	2	8	4.43	4.86	4.86
マーケティング・マネジメント	2	22	4.29	4.75	4.71
ファイナンス	2	16	4.19	4.56	4.63
企業ファイナンス	1	6	4.60	4.80	4.60
企業ファイナンス	2	4	4.00	5.00	5.00
管理会計		15	3.80	3.67	3.93
財務諸表分析	1	20	3.17	3.28	3.44
テクノロジー・マネジメント	2	14	4.64	4.93	4.93
生産システム		6	4.33	4.33	4.50
ベンチャービジネス	2	32	3.92	4.24	4.29
公共経営論	2	13	4.42	4.67	4.67
統計分析論		7	4.50	4.67	4.83
ゲーム理論		23	4.22	4.43	4.39
グローバル・エコノミー		2	4.00	5.00	4.50
クリティカル・シンキング		28	4.46	4.50	4.62
上級英語コミュニケーション	2	7	3.57	4.57	4.71

春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業経営史		9	3.75	4.25	4.25
組織管理		19	4.11	4.56	4.67
国際経営		12	3.64	3.82	3.91
事業システム戦略論		18	4.35	4.59	4.65
経営戦略事例研究	1	11	4.64	4.91	4.91
マーケティング・コミュニケーション	1	21	4.07	4.40	4.40
流通システム		5	4.80	4.60	4.80
消費者行動		10	4.50	4.70	4.80
ロジスティクス		9	4.63	4.88	4.88

国際マーケティング		8	3.57	4.00	4.00
金融工学		21	4.40	4.55	4.70
証券投資		9	4.14	4.29	4.57
リスクマネジメント		14	3.27	3.18	3.18
Special Topics in Finance		5	4.00	5.00	5.00
イノベーション経営		20	4.33	4.61	4.78
製品開発事例研究		18	4.00	4.29	4.41
標準化経営戦略		20	3.78	4.17	4.22
Product Innovation		7	4.17	4.67	-
アントレプレナーシップ		12	4.30	4.40	4.20
ベンチャービジネス事例研究		22	4.25	4.80	4.75
企業倫理事例研究		6	2.83	3.67	3.67
研究開発型ベンチャー創成		44	4.26	4.38	4.38
企業経営戦略特論B		7	5.00	5.00	5.00
企業経営戦略特論C		38	4.50	4.74	4.76
企業経営戦略特論D		12	4.50	4.42	4.50
企業経営戦略特論G		9	4.33	4.56	4.56
公共経営事例研究		6	4.00	4.80	4.60
自治体会計		5	4.40	4.80	4.80
病院経営	1	10	4.11	4.33	4.33
大学経営	1	4	4.67	4.75	4.25
大学財務管理		6	4.80	4.80	4.80

秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業家論		11	3.90	4.40	4.40
人材マネジメント		9	4.44	4.78	4.78
組織管理事例研究		25	4.42	4.78	4.87
経営戦略事例研究	2	19	4.39	4.82	4.94
サービス・マーケティング		5	4.60	4.60	4.80
チャネル・マネジメント		1	4.00	5.00	5.00
ブランド・マネジメント		22	4.11	4.32	4.47

マーケティング・コミュニケーション	2	2	5.00	5.00	5.00
マーケティング戦略		13	4.17	4.58	4.58
営業戦略		15	3.38	3.85	3.92
マーケティング・リサーチ		7	4.50	4.83	4.83
金融商品		11	4.50	4.63	4.63
行動ファイナンス		6	4.25	4.75	5.00
製品開発		10	4.67	5.00	5.00
データマイニング		10	4.33	4.56	4.78
新規事業計画		13	4.08	4.69	4.75
中小企業経営革新		17	4.30	4.60	4.60
知的財産権法		7	4.29	4.57	4.57
官民パートナーシップ論		7	4.57	4.71	4.71
地域経営事例研究		3	3.67	5.00	4.67
自治体ガバナンス		10	4.25	4.44	4.67
自治体財務管理事例研究		4	4.00	4.67	4.67
病院経営	2	2	4.50	4.00	4.50
病院経営事例研究		9	4.29	4.71	4.71
医療経済学		9	3.67	4.38	3.89
大学組織管理		3	4.67	4.67	4.50
Special Topics in Marketing (BS)		1	5.00	5.00	5.00

B. 教員による担当科目自己評価

教員は、各授業終了後に「教員担当科目自己評価表」に次の3点の自己評価を記載することになっている。

- ①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。
- ②この科目において実施してよかった点と改善・工夫をしたほうが良い点は何ですか。
- ③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。

以下では、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて、各質問項目について分析・考察する。教員の様々な工夫や努力を教員間で共有して授業改善につなげられるためにもできるだけコメント（「 」内）を多く掲載した。

(1) コア科目群：

①「最も力を入れたこと」としては、「基礎的な理論や概念についての理解」「考え方のフレームワークを提供すること」「最終的には、①受講生が経営に関する一般的な理解を深めること、および②本コースが、各受講生の今後の履修指針の一助となることを目指した。」など基本的な理論・フレームワークを習得することに力点が置かれ、さらにコア科目の履修後に続くベーシック・アドバンスト科目につながることを念頭に置かれての授業がなされていた。

②「実施してよかった点」については、以下のように、小テストやレポート、演習問題による理解度の向上と、グループ討議やグループ研究発表などの学生間の対話および学生と教員間の双方向授業を複数組み合わせている教員が多かった。

「改善・工夫をした方がよい点」について、履修者数が多い科目が多いコア科目ならではのコメントとして「受講生のバックグラウンドの違いや理解度のバラツキの大きさ」、グループ発表でのフリーライダー問題が挙げられていた。受講生のバックグラウンドの違いとして、たとえば、「エクセルができない学生がいる…(中略)…エクセルのためのアシスタントが授業中ほしい」という要望もあった。もっとも入学前の特別授業でエクセルを扱っていることで、受講者が自助努力をするよう履修前のガイダンス等で重ねて学生に求めるなどの改善ができると考えられる。また、必修科目の英語ではクラスごとの履修者数の平準化を求める声があった。こちらも、他にベーシック科目にあった「クラスの人数にあった大きさの教室の割り当て」の要望とともに研究科として改善を検討すべきだろう。

③「目標が達成されたか」については、「おおむね達成された」という意見が多かった。

(2) ベーシック科目群

①「最も力を入れたこと」について、コア科目にはない新しい専門分野の科目では、コア科目群と同様に、基礎的な概念や理論の理解を挙げる教員が多かった。それ以外の科目ではコア科目の発展的な内容を意識したものが多かった。

②「実施してよかった点」については、まず、双方向授業の工夫が挙げられていた。「積極的なグループ討議」「グループ研究」「事例問題などをできるだけ取り上げたところ、かなり積極的な発言を引き出した」「最終グループ発表の前に、一度フィードバックを行った。グループ発表の質は大変高いものにできた。」「優れているレポートを毎回次週に紹介した」。

上記①の「基礎的な概念や理論の理解」に関連して、「講義の内容をより基礎的なことに絞り込んだ」「毎回授業の前半(毎回のテーマに沿ったレクチャー)と後半(ケース・メソッド・ティーチングでその基礎知識を応用して身に付ける)の連動」「実務での経験をできるだけ紹介」など基礎知識を身近に理解することとそこからの応用を強化する工夫があった。

また、「教科書の要約をレポートとして提出してもらい、講義内容の理解を一層確実にした」「毎週事前学習してもらった資料を配布し、課題を提示して、レポート提出してもらった」など、授業前の学習を促す工夫が挙げられていた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」としては、「グループ討議をする際、積極的な受講者と消極的な受講者が存在すること」「ケースを熟読してこない学生への対応」など、コア科目でも見られた受講者のばらつきの問題がベーシック科目群でも挙げられた。それについては、「論点を絞って討議する方がいい」「早いうちに受講者のバックグラウンドを把握し、それを活かした発言を引き出すなど…(中略)…講義の双方向性を一層高めた方がいい」「解答についてももう少し説明を付け加えた方がいい」「来年は各人の進捗具合をチェックする小テストを考えている。」「生徒間での討論・意見発言となる話題提示ができればと思った」などが挙げられていたが、他の教員の②「実施してよかった点」も参考にして改善できることがありそうである。

また、授業内容の配分について、「もう少し1回の講義の内容を減らし、その時間を演習時間として利用した方が良かったかもしれない」「もっと応用的な内容を取り込むと同時に、〇〇のケースも講義対象にすべきだった」「新しい事項を盛り込むと時間オーバーになりがちだったので、気を付けたい」などの改善点も挙げられた。

今年度から新しく加わった公共経営プログラムでは、「官庁等の勤務経験のない受講生」を意識した改善が挙げられていた。

③「目標が達成されたか」については、「おおむね達成された」という意見が多かったが、上記②の改善・工夫が挙げられていた通りで、改善は今後も重ねられるだろう。

(3) アドバンスト科目群：

①「最も力を入れたこと」に関しては、アドバンスト科目群で発展的な科目という性質から、その内容は多岐にわたり、企業が直面している問題を扱う、理論を踏まえた応用、理論と実際を相互に関連させる、他の科目とのつながりをつけるなどが挙げられていた。

②「実施してよかった点」については、グループワーク、ケース・スタディ、教員作成のケースを用いた講義・ディスカッション、毎回の小テストとその解説、毎回課すレポートとそのうちの優れたレポートの紹介、グループ研究発表など、コア科目やベーシック科目でも見られた工夫のほか、「受講生によるプロジェクト報告」「自社の分析を課すこと」「ゲストスピーカーを招く」「学んだことを自らの職場で試してレポートを課す」「具体的な映像を見せるなど事例を以て「情報体験」してもらう」「ワークショップ形式」での議論」「多くの分野の応用例を取り上げたこと」など実務につながるような工夫が多かった。「グループワークでは、受講生による投票で、優秀賞コンペを実施している」という工夫もあった。

実務家講師によるオムニバス科目では、「講義資料・アンケート・レポートに関する作業手順書」を含む「講師用ガイドブック」を作成し各講師に配布し、それに沿って授業準備と実施をしてもらった。…(中略)…交流(情報交換)を図るべく、教員の方数名にお声をかけて、2名の方に講義のご聴講をいただいた」という工夫があったが、これは講師間の授業の質のばらつきを防ぐために他のオムニバス講義にも参考にできることだろう。

「改善・工夫をしたほうが良い点」について、「授業前日までに LUNA に講義の教材や受講生の連絡事項を掲示しているが、事前に予習してくる受講生はそれほど多くない。今後はアサインメントを明確に指示することにしたい。」「事前に宿題を設けるなどにより学生の考察機会を設けたい」など学生の事前学習を促す工夫を提示した意見が多かった。

アドバンスト科目ともなると授業内容が多岐にわたることもあり、「授業内容を詰め込みすぎ、履修生とのディスカッション時間が取れなかった」「今回は少し難度を挙げたため、講義についていけないケースが散見された。復習の機会を設ける工夫が必要」「内容を絞り、Q&A の時間を多くすること」「ケースの理解について個人間のバラつきがあったので、別途時間を使った対応することが必要」などが挙げられていた。また、学生との情報共有、学生の理解度把握などのために、LUNA のより一層の活用を挙げた教員もいた。

③「目標が達成されたか」については、コア・ベーシック科目と異なり、具体的に目標に対する達成度を記載して、手ごたえを得ながらも、②の改善点をはじめとして、「今後は、テーマや問題を深堀して、解決 - 実証(調査など)を含めて「議論」を広げていく工夫を考えていきたい」「新しいことを盛り込むのが十分になしえなかった点を反省」など、その分野に即した改善も挙げている教員が多かった。

(4) 課題研究科目群：

①「最も力を入れたこと」について、課題研究基礎では「課題研究論文の進め方を理解させること」が多かった。課題研究では、「実際に自分や組織、人や社会の役に立つ研究を行うこと」「学会発表や査読付きの学術誌にパスするレベルの論文を書くこと」「研究対象を的確に表現すること」など、教員によって違いが見られた。

②「実施してよかった点」について、課題研究基礎では課題研究と同様の論文形式のレポートの提出を課したという教員が多かった。他には「過去の学生の発表や論文の例の紹介」、「図書館の資料やインターネット検索の利用」「グループ研究」が挙げられた。

課題研究では、「春(夏)休み中に2回の授業を行ったこと」「時間に縛られず、いつでも密に受講生と連絡を取り、スカイプ等で指導ができたこと」「本日の結論を冒頭に提示するプレゼンテーション」「関連理論や事例のミニ講義を多く挟み込んだこと」など、学生がレベルの高い論文を書くためのモチベーションを上げる工夫が多くなされていた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」について、課題研究基礎では、「研究テーマの焦点がなかなか決まらないケース(など)…早めに対応することが必要」「図書館での実習に際して持ち込み PC が利用できるので、次回から計画修正したい」「時間的制約で扱いたい統計的手法のすべてを紹介できなかつた」などが挙げられた。

課題研究では、「受講生のレベルや投入時間によって、同様の指導法、目的の達成は難しい」などの多様な学生への対応、「課題の形成に時間がかかり、最終段階で十分な検証や考察ができなくなった」など研究論文完成までの時間の短さや、人数が多くなると「指導の水準を維持することが難しくなってくる。最大でも 7~8 名を超えないような割り当てが必要だろう」など履修者数の問題などが挙げられていた。これらは教員個人で改善するには限界があり、研究科として改善を検討した方がいいと思われる。

課題研究は、課題研究基礎で研究の方法を学び、他の科目の多くを履修した後の学びの集大成と位置づけられる科目である。それに関連して、課題研究の自己評価で「課題研究基礎のうちから論文のテーマを具体化し、データ収集を開始するなど、早期に課題研究論文の準備を始めさせた方がいい」という教員がいた。同様に、課題研究基礎の方でも「課題研究と基礎の参加者が必ずしも一致していないために、目標には到達できない」と記載している教員もいた。また「事前に受けてくる科目のバラつきによって事前学習の対応を緻密に行うこと」という意見もあった。課題研究と課題研究基礎、他の科目との連動を教員間で工夫・検討した方がいいのかもしれない。

③「目標が達成されたか」については、課題研究基礎と課題研究ともに「おおむね達成された」とする教員が多かったが、一部の学生には当てはまらないと学生間のばらつきに苦慮する教員も毎年のことながらいる。

以上を全般に見てみると、②の「改善・工夫したほうが良い点」について、当専攻で授業を担当して初めてあるいは間もなくの教員の中には多くの点を挙げ、逆に本研究科での教歴が長い教員には「特になし」という記述が多いという傾向はあるものの、「4年目にして、やっと目標の授業が達成できた」「今年は〇〇をしてみた」など毎年工夫を重ねている教員が多い。今後も、他の教員の②の「実施してよかった点」を参考にするなど教員間で情報共有して改善できることはあると考えられる。もちろん、個々の学生による授業評価アンケートの結果に基づいた改善を重ねる努力も必要であろう。

経営戦略専攻・国際経営コース

A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける 2014 年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過去 2 年度の結果と比較して分析する。ただし、質問項目 14「授業内容の就職後の実用性 (Course content were highly relevant and useful for your future career)」は国際経営コースで独自に追加している質問項目である。

表 1：2014 年度授業評価結果 (2012 年、2013 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

全科目群															
学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2012	4.45	4.40	4.64	4.24	4.49	4.41	4.26	4.12	4.37	4.16	4.13	4.34	4.33	4.40
	2013	4.67	4.73	4.78	4.46	4.69	4.59	4.60	4.48	4.64	4.46	4.45	4.55	4.53	4.56
	2014	4.77	4.71	4.72	4.47	4.67	4.59	4.48	4.54	4.69	4.53	4.46	4.55	4.57	4.67
秋学期	2012	4.42	4.54	4.60	4.13	4.46	4.33	4.32	4.25	4.36	4.22	4.16	4.20	4.33	4.35
	2013	4.73	4.69	4.76	4.30	4.55	4.61	4.56	4.56	4.65	4.50	4.56	4.51	4.53	4.64
	2014	4.67	4.61	4.63	4.39	4.60	4.54	4.37	4.49	4.62	4.38	4.42	4.46	4.58	4.57
通年	2012	4.43	4.47	4.63	4.19	4.47	4.37	4.29	4.18	4.36	4.19	4.15	4.27	4.33	4.37
	2013	4.70	4.71	4.77	4.38	4.62	4.60	4.58	4.52	4.65	4.48	4.50	4.53	4.53	4.60
	2014	4.72	4.65	4.67	4.43	4.63	4.56	4.42	4.51	4.65	4.45	4.44	4.50	4.57	4.62

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移しており、2014 年度は 2013 年に比べて同程度である。約半分の項目で 2014 年度は 2013 年度を上回り、それ以外の項目で若干下回った。しかし、多くの質問項目の平均が 4 点台後半の高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというところ「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが 4.0 を超えているという「高い評価」結果を得ている。さらに、多くの質問項目の平均点が 4.5 を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去 2 年との比較をしてみると一昨年 2013 年度は 2012 年度よりもすべての項目で上回ったが、2014 年は平均すると 2013 年度レベルと同じであろう。背景には、継続的な教員の FD の努力が伺えるが、学生数が少人数のクラスのため丁寧に応答型の教育手法のため内容が学生に十分に伝わるクラスが多いので満足度が高く推移していると考えられる。また、近年の学生の国籍が多様化していること、多様な意見が集う討論形式の授業が多いので学生のクラスへの貢献と理解度の向上が工夫されているので満足度が高いとも考えられる。今後の評価の傾向を注視すべきであるが、この高い満足レベルを維持したいと考える。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、昨年同様、質問項目 1「The course met the objectives and topics described in the syllabus」においては 4.72、質問項目 3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては 4.67、

質問項目 2 「The instructor was well prepared for the classes」が 4.65、というトップ 3 の高評価点は変わらない。これらの教員に対する学生の高い評価は、教員全体が継続的な教育の向上を目指した結果の反映であると考えられる。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目 9 「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」が 4.65、質問 14 「Course content were highly relevant and useful for your future career」がともに 4.62、設問 13 「Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students」が 4.57 質問、6 「Instructor's interest in whether students learned was high」が 4.56 であった。

一方、比較的低い評価であったのは、質問 7 「The amount of work assigned was reasonable」の 4.42、質問 4 「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」が 4.43、質問 11 「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が 4.44、質問 10 「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が 4.45 であった。上記質問 7 に関しては、宿題が多すぎるのかそれとも少なすぎるのか疑問が残る。質問 4 の結果は、2013 年度も低レベルであったが、学生が実際にテキストを購入し事前に準備しているのかとの疑問が起こる。質問 10、質問 11 も 2013 年度も比較的 low 評価であったが、コースに対する学生の姿勢に対する評価である。これらの質問からわかるのは、学生の勉学意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、全体では比較的 low レベルである点である。昨年度も指摘したが、学生の勉学意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価がこのような結果になったのではないだろうか。

表 2 : 2014 年度授業評価コア科目群結果 (2012 年、2013 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

コア科目群		設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2012	4.25	4.21	4.51	4.09	4.33	4.25	4.42	4.05	4.23	4.07	3.93	4.12	4.20	4.25
	2013	4.76	4.81	4.82	4.70	4.74	4.68	4.88	4.72	4.70	4.69	4.55	4.72	4.71	4.73
	2014	4.60	4.61	4.52	4.38	4.52	4.42	4.27	4.46	4.51	4.25	4.11	4.34	4.34	4.41
秋学期	2012	4.62	4.50	4.53	4.31	4.50	4.42	4.40	4.44	4.31	4.28	4.31	4.22	4.44	4.39
	2013	4.60	4.55	4.53	3.84	4.27	4.36	4.55	4.50	4.42	4.17	4.22	4.20	4.09	4.42
	2014	4.65	4.55	4.66	4.57	4.69	4.65	4.45	4.69	4.60	4.47	4.55	4.50	4.60	4.65
通年	2012	4.38	4.32	4.52	4.17	4.40	4.31	4.41	4.21	4.26	4.15	4.08	4.16	4.29	4.31
	2013	4.68	4.68	4.68	4.27	4.51	4.52	4.72	4.61	4.56	4.43	4.39	4.46	4.40	4.58
	2014	4.63	4.58	4.59	4.48	4.60	4.53	4.36	4.58	4.55	4.36	4.33	4.42	4.47	4.53

表 3 : 2014 年度授業評価ベーシック科目群結果 (2012 年、2013 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

ベーシック科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2012	4.57	4.36	4.59	4.44	4.53	4.42	3.93	3.91	4.34	4.32	4.50	4.61	4.32	4.56
	2013	4.82	4.84	4.83	4.62	4.88	4.79	4.63	4.57	4.77	4.66	4.65	4.61	4.68	4.79
	2014	4.70	4.84	4.61	4.27	4.45	4.31	3.81	4.33	4.59	4.19	4.09	4.41	4.37	4.60
秋学期	2012	4.46	4.58	4.64	4.13	4.55	4.36	4.29	4.27	4.41	4.35	4.29	4.30	4.36	4.43
	2013	4.76	4.74	4.84	4.31	4.56	4.70	4.45	4.56	4.70	4.50	4.65	4.49	4.59	4.68
	2014	4.65	4.66	4.63	4.54	4.67	4.63	4.45	4.59	4.65	4.32	4.42	4.48	4.60	4.61
通年	2012	4.50	4.50	4.62	4.24	4.55	4.38	4.17	4.15	4.38	4.34	4.36	4.41	4.35	4.47
	2013	4.79	4.79	4.83	4.46	4.71	4.74	4.54	4.57	4.73	4.58	4.65	4.55	4.63	4.73
	2014	4.67	4.65	4.62	4.44	4.58	4.50	4.20	4.49	4.63	4.27	4.29	4.45	4.51	4.60

表 4：2014 年度授業評価アドバンス科目群結果（2012 年、2013 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

アドバンス科目群															
学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2012	4.53	4.56	4.78	4.25	4.58	4.53	4.33	4.31	4.50	4.14	4.06	4.33	4.43	4.41
	2013	4.58	4.67	4.75	4.33	4.60	4.48	4.51	4.37	4.57	4.30	4.33	4.48	4.43	4.42
	2014	4.84	4.76	4.81	4.56	4.78	4.73	4.76	4.63	4.77	4.71	4.69	4.65	4.70	4.78
秋学期	2012	4.18	4.50	4.60	3.95	4.23	4.18	4.30	4.03	4.29	3.88	3.75	3.95	4.15	4.13
	2013	4.76	4.72	4.80	4.45	4.64	4.65	4.61	4.59	4.71	4.61	4.64	4.62	4.64	4.69
	2014	4.68	4.58	4.62	4.28	4.60	4.55	4.53	4.42	4.63	4.48	4.53	4.45	4.65	4.50
通年	2012	4.40	4.54	4.72	4.14	4.45	4.41	4.32	4.21	4.43	4.04	3.95	4.20	4.33	4.31
	2013	4.67	4.69	4.77	4.39	4.62	4.56	4.56	4.47	4.63	4.45	4.48	4.54	4.53	4.55
	2014	4.77	4.88	4.73	4.44	4.70	4.65	4.66	4.54	4.71	4.62	4.83	4.56	4.88	4.65

また、表 2 から表 4 はコア、ベーシック、アドバンス科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては前述した内容と同じ傾向が見受けられる。つまり、過去 2 年との比較をしてみると 2013 年度よりも全体的に評価が上がり、2012 年度の評価をも上回っている。

注目すべきは、コアよりはベーシックが上回り、アドバンスはベーシックよりも評価が高い点である。昨年度は、ベーシックよりアドバンスの方が低い評価であったが、本年度はその逆であり、学生のコース選択と満足度のマッチが良かったと考えられる。この点は、今後の推移を見守りたい。

個々の項目で見ると、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンス科目群すべてで質問 3 「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」が昨年同様最も高く夫々 4.59、4.62、4.73 と 4.5 を上回る高い評価であった。この結果からも、教員の知識レベルを学生が高く評価している。

一方、一番低い評価項目は、コア科目群で質問 11「you made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」の 4.33、ベーシック科目群では質問 7 「The amount of work assigned was reasonable」の 4.20、アドバンス科目群では質問 4 「the prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」で 4.44 であった。この結果を分析してみると、学生がテキストブックや教員の教材をあまりつかっていないのではないかと前述の疑問をさらに強める結果となった。積極的に教員がテキストを購入するように指導し、授業のクイズに使用するなどで自主勉強を促すことを工夫しなければならないかもしれない。

B. 教員による授業評価アンケート

授業評価の結果が秀でた科目では、昨年同様、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様

な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコースなどが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの昨年同様の結果が見受けられた。外国人が多い IMC においては日本での経験をより多く授業を通して知りたいといった欲求の表れであると思われる。

良かったと評価する項目は、学生に授業時にプレゼンテーションを課すことで授業に自ら関わる姿勢を動機づけするような工夫をすることで学生の学習意欲が上がったと評価している教員が多かった。また、理論や知識だけでなくそれをどのように応用したかの事例を取り扱ったことが学生の理解の向上につながったなどの意見が見られた。

一方で、今後の改善点としては、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良かったと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変である事などが注目される。学生の全体数が少ないおかげか教員と学生とのコミュニケーションは活発化した一方で、学生間の議論の盛り上がりの欠如と、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員が多くいた。この傾向は昨年でも見られた。また、多国籍な学生の交流をどのように円滑に行うかとまどっているとの意見もあった。

昨年の評価でも指摘されているが、受講学生の予備知識の習得に関しては、IMC 内での制度的な取り組み(例えば PreMBA のような準備コースの提供など)が必要かもしれない。この取り組みにより、学生の統一的な基礎学力の向上が期待できる。特に、国際経営コースはその様々な国籍と文化的、キャリア、バックグラウンドの違いから、多様な考えと違った知識レベルの学生が入学する。それを統一的な尺度で教えることの難しさを感じる教員が多くいる。しかしながら、多く教員が非常勤や任期制であるため統一的な取り組みを進めるハードルは高い。さらに専任教員は、今まで以上の授業や公務の負担が増えることにつながりかねない。その際には、教育の質を落とさないような慎重な準備と工夫が求められる。

また、国際経営コースは、コース選択の自由度が高く非常に柔軟なカリキュラム制度であるという強みであるが、一方でクラス内での学生間の知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、ベーシックコースやアドバンスコース選択の前の prerequisite 化を検討することや、専門性を高めるためのコース選択をどのように行うかを指導する必要があるのかもしれない。

5. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、【設問 1】から【設問 9】が「教員の授業内容と方法」

について、【設問 10】および【設問 11】が「学生自身の取り組み」について、【設問 12】から【設問 14】が「授業の満足度」について問うものである。

各設問の平均値（四捨五入）および【設問 13】とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

<各設問の平均値と【設問 13】とその他の設問との相関係数>

番号	設問文	2014 年度春学期		2014 年度秋学期	
		平均値	問13との相関係数	平均値	問13との相関係数
1	授業内容はシラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか	4.8	0.42	4.8	0.32
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか	4.9	0.34	4.8	0.34
3	教員は担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか	4.9	0.24	4.9	0.37
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか	4.8	0.50	4.8	0.49
5	教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか	4.7	0.31	4.7	0.40
6	教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか	4.7	0.49	4.6	0.62
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか	4.7	0.32	4.7	0.44
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか	4.6	0.51	4.7	0.54
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか	4.8	0.38	4.8	0.46
10	この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか	4.3	0.32	4.3	0.29
11	この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか	4.0	0.24	4.1	0.28
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか	4.4	0.59	4.5	0.47
13	この授業は全般的に満足のいくものでしたか	4.8	/	4.8	/
14	この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか	4.8	0.85	4.8	0.78

(2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を延べ有効回答数で平均したもの（総平均値、四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から 2014 年度にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。

<専攻平均値の推移>

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3

秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度		
春学期	4.3	4.6	4.6	4.7		
秋学期	4.4	4.6	4.7	4.7		

専攻平均値は、2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度秋学期まで4.4ないし4.5という値を記録し、その後も、2011年度まで4.3から4.5で順調に推移してきた。2012年度から2013年度春学期には4.6となり、更に、2013年度秋学期から2014年度春学期、秋学期は4.7と、総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、過去、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみられたが。この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が圧倒的に多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられる。もっとも、2012年度以降はその様な傾向は見られていない。今後、この傾向が見られる場合には科目群（コア、ベーシック、アドバンスト）ごとの評価などを踏まえた取り組みを検討する必要があるかもしれない。

(3) 個別評価

① 教員の授業内容と方法

専攻全体での平均値を見ると、各設問の平均値の傾向に大きな変化はないが、全体としては2012年前と比較して、2012年以降では評価値のステージが高位となったことが読み取れる。特に、【設問1】から【設問4】および【設問9】は4.8ないし4.9と高い評価となっている。

【設問1】から【設問4】の値を踏まえると、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。【設問9】については、各科目の受講者数の減少により、質問をし易い環境があったと推定されるかもしれない。

【設問5】から【設問8】については上記設問に比して相対的には低い評価となっているが、2012年度以降、2014年度秋学期の【設問6】を除き、同位または上昇している。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高位で安定しているものといえよう。

以上より、専攻平均値の傾向にもみられるように、慎重な配慮も必要ではあるものの、全体としては、授業の事前準備とこれを踏まえた授業の実践などに対して、学生から高い

評価を得ているといえる結果となっている。ただし、【設問 5】から【設問 8】の評価については、他の設問に比して総じて低い値となっている点に留意する必要がある。

< 【設問 1】から【設問 9】の平均値 >

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9
(専攻全体)									
2010年度春学期	4.6	4.6	4.8	4.5	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4
2011年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.5	4.3	4.3	4.4	4.4	4.6
2011年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.6	4.8
2014年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
(コア科目)									
2010年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.4	3.9	3.9	4.1	4.1	4.3
2010年度秋学期	4.6	4.7	4.8	4.5	3.9	4.1	4.1	4.2	4.3
2011年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.4	4.2	4.2	4.3	4.4	4.5
2011年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.6	4.7
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6
2012年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.5	4.6	4.6
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.5	4.3	4.5	4.4	4.7
2014年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.7	4.7
(ベーシック科目)									
2010年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4
2011年度春学期	4.6	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.3	4.5	4.7
2011年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9
2014年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	5.0	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.9
(アドバンスト科目)									
2010年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.3	4.3	4.4	4.6
2011年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8

2011年度秋学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.7
2012年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.9
2012年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2013年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2014年度春学期	4.9	5.0	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.9
2014年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8

そこで、科目群ごとの評価に目を向けると、まず、【設問 1】から【設問 4】の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はないが、ベーシック科目の2014年秋学期の評価が4.7と低下しているのが気になるが、著しいものではない。

【設問 5】から【設問 8】については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向と状況にある。したがって、前述の専攻全体での【設問 5】から【設問 8】の評価が他の設問に比して相対的に低いのは、コア科目の評価が起因していることが分かる。

コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこで、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、企業会計コースの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂によって増加している傾向にあらう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学時点での会計知識の水準が影響している可能性も想起される。

以上、専攻全体に係る【設問 1】から【設問 4】の評価より、学生が教員の授業内容の意義を理解していることが示唆されることから、会計専門職専攻開設以来、教育面での一定の成果が維持されていることが説明できるであらう。ただし、【設問 5】から【設問 8】の評価からは、特にコア科目について、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の質の確保と時間配分、課題の質と量については今後も継続的に注意していくとともに、効果的かつ効率的な方法で授業が実践されることが望まれる。例えば、②学生自身の取り組みで述べる、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも考慮されてもよいであらう。もっとも、基礎的教育であるがゆえの課題の量について起因する部分はやむ得ない面もあらう。

< 【設問 10】から【設問 14】の平均値 >

	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
(専攻全体)					
2010年度春学期	3.9	3.8	4.1	4.4	4.5

2010年度秋学期	4.0	3.9	4.2	4.5	4.6
2011年度春学期	4.0	3.9	4.2	4.5	4.6
2011年度秋学期	4.1	4.0	4.3	4.6	4.6
2012年度春学期	4.1	4.0	4.3	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度春学期	4.2	3.9	4.3	4.6	4.6
2013年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.7
2014年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
(コア科目)					
2010年度春学期	3.8	3.7	3.9	4.3	4.5
2010年度秋学期	3.9	3.8	4.0	4.4	4.5
2011年度春学期	4.0	3.8	4.1	4.4	4.5
2011年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.6	4.7
2012年度春学期	4.1	3.8	4.2	4.5	4.6
2012年度秋学期	4.1	3.9	4.2	4.5	4.6
2013年度春学期	4.2	3.9	4.2	4.5	4.6
2013年度秋学期	4.4	4.1	4.3	4.6	4.7
2014年度春学期	4.3	3.9	4.3	4.7	4.8
2014年度秋学期	4.1	4.0	4.4	4.7	4.7
(ベーシック科目)					
2010年度春学期	4.0	3.9	4.2	4.6	4.7
2010年度秋学期	3.9	3.8	4.1	4.5	4.6
2011年度春学期	4.0	4.0	4.3	4.6	4.7
2011年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.6	4.7
2012年度春学期	4.2	4.1	4.3	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.3	4.0	4.5	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.5	4.3	4.5	4.8	4.8
2014年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.4	4.1	4.6	4.8	4.9
(アドバンスト科目)					
2010年度春学期	4.2	4.1	4.4	4.6	4.6
2010年度秋学期	4.0	4.0	4.4	4.6	4.7
2011年度春学期	4.1	4.3	4.5	4.8	4.8
2011年度秋学期	4.2	4.2	4.5	4.6	4.7
2012年度春学期	4.3	4.3	4.6	4.8	4.8
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.8
2014年度春学期	4.3	4.2	4.6	4.9	4.9
2014年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.9

② 学生自身の取り組み

「学生自身の取り組み」を問う【設問 10】と【設問 11】の評価は、春学期よりも秋学期の方が高くなる傾向がある。【設問 10】については、2013 年度秋学期にこれまでで最も高い値となっているが、傾向として、2012 年度秋学期以降その前の学期に比して高い評価となっている。学生自身の予習・復習の取り組みが少しずつ積極化していると考えられる。

【設問 11】は全ての設問の中で、最も低い評価となっている。自分から文献を探すなどの努力について改善の取り組みを促す必要がある。

ただし、【設問 10】と【設問 11】は他の設問に比して、依然、低い値である。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものとも言えよう。この点は、本学だけでなく、専門職大学院の教育一般にとっても課題となっているテーマであることから、今後とも注視しなければならない。

<学生自身の取り組みに係る評価の推移>

	2007 年度	2007 年度	2008 年度	2008 年度	2009 年度	2009 年度	2010 年度	2010 年度
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
設問 10	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	4.0
設問 11	3.7	3.9	3.8	3.9	3.8	4.0	3.8	3.9
	2011 年度	2011 年度	2012 年度	2012 年度	2013 年度	2013 年度	2014 年度	2014 年度
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
設問 10	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3
設問 11	3.9	4.0	4.0	4.1	3.9	4.2	4.0	4.1

教員による継続的な取り組みとして、【設問 10】に関しては、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討して、これを実践することが考えられる。特に、授業で与える課題の量を予習・復習との関係も踏まえて設定するなど、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも必要であろう。

【設問 11】に関しては、【設問 4】とも関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をすることを、これまで以上に行うべきであると考えられる。

③ 授業の満足度

【設問 12】から【設問 14】に対する評価は、授業に対する評価の結論的指標となるもの

であり、2013年度、2014年度の両年度とも、2012年度に引き続き、高い値となっている。

分析能力や批判力が養成されたかを問う【設問 12】については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっている。上述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎知識を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあろうかと思われるが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。教員全体としては、後述の教員の担当科目自己評価表の検討を踏まえて、FD活動において取り上げるべき課題としていくことも考えられる。

さて、学生の満足度を問う設問 13 と比較的高い相関を見せたのは、春学期では、【設問 4】(0.50)、【設問 8】(0.51)、【設問 12】(0.59)、秋学期では、【設問 6】(0.62)、【設問 8】(0.54)であった。これらからは、適切な教科書や配布資料を用いて、個々の学生の理解水準に応じたフォローを行い、授業の内容と時間配分を適切な水準に置き、これらをつうじて、分析能力や批判力の涵養を図っていくことが、学生の満足度につながることを示しているといえよう。

以上より、授業の事前準備のなかで適切な教科書を選択し、配布資料を制作して、授業内容の水準と量（予習、復習、課題などを含む。）そして授業時間とのバランスを図り、より分析能力・批判力が涵養される授業を実践していくことの重要性を引き続き指摘できよう。

B. 教員による担当科目自己評価

教員による担当科目自己評価表は、【設問 1】この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、【設問 2】この科目において、①実施してよかった点と②改善・工夫をした方がよい点は何ですか、【設問 3】この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という3つの設問について、担当教員が記述形式で回答するものである。

以下では、各設問に対する回答の傾向を把握するために回答内容を分類し、これに基づいて分析を行っている。ただし、次のような制約、限界がある点に留意されたい。まず、分類にあたっては回答の文言よりもその趣旨に基づいているが、各設問の回答は記述形式であるため、その判断が主観的なものとならざるを得ない部分がある。また、全体的な傾向を明らかにするため、回答が1つもしくは2つの場合には、表には含めていない。なお、開講が複数回なされている科目については重複してカウントしていないが、1つの設問に対して複数の回答しているものについては、それぞれカウントしている。

(1) 【設問 1】に対する回答内容とその分析

【設問 1】（この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか）に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

< 【設問 1】に対する回答内容 >

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
基礎的・体系的知識の習得	18	12	9
基本的な計算力・論述力の涵養	3	3	2
一定水準の知識・能力の修得	—	3	21
担当科目に関する詳細な解説	—	1	3
事例・実務を踏まえた講義	1	2	8
実践的な能力の習得	—	3	6
丁寧な解説	4	2	2
グループワーク・ディスカッションなど双方向な講義の実践	1	—	6
学生による自主的・積極的な学習実践の促進	3	—	2

コア科目では、基礎的・体系的知識の習得を図ることに最も力を入れているとの回答が突出して多い。これは、コア科目の性格上、首肯しうるところであろう。ベーシック科目については、事例・実務を踏まえた講義を行うことや実践的な能力の習得といった実践性の涵養を図ることに最も力を入れたとの回答もあるが、基礎的・体系的知識の習得を図ることに最も力を入れているとの回答が多い。アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得を図ることに最も力を入れているとの回答が多くなり、また、実践性の涵養を図ることに最も力を入れたとの回答が増えている。さらに、双方向の講義を実践することに最も力を入れたとの回答も増えている。

(2) 【設問 2】に対する回答内容とその分析

【設問 2】は、①担当科目において実施してよかった点と、②担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する自己評価を回答することとなっている。

① 担当科目において実施してよかった点

担当科目において実施してよかった点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

< 担当科目において実施してよかった点に対する回答内容 >

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
小テスト・中間テストの実施	10	5	2
宿題・レポートなどの課題の賦課	9	5	6
テスト・課題に対するコメントのフィードバック	1	2	—
講義時間中での演習	3	—	8
基礎知識の確認等を踏まえた丁寧な解説	4	1	5
要点を得たもしくは詳細なレジユメの作成	6	4	5
前回の復習をしたうえで新たな内容に進むこと	1	3	1
事例・実務に則した講義	1	4	11
学生による課題報告（発表）や意見発信	2	1	9
双方向な講義の実践	1	6	13

コア科目では、小テスト・中間テストの実施や宿題・レポートなどの課題を課すこととの回答が多く、これは、【設問 1】を踏まえた基礎的・体系的知識の定着を図るために実施されているものと考えられる。また、レジユメの作成といった教員独自の教材を開発していることも見受けられる。ベーシック科目では、コア科目にみられる傾向に加えて、双方向な講義を実践することや事例・実務に則した講義を行うとの回答が増えている。アドバンスト科目では、一定水準の知識・能力の修得を図るために、双方向な講義の実践や演習を組み込むといった取組みがみられるとともに、事例・実務を踏まえ、これに則した講義を実施しているとの回答が増えているものと考えられる。

② 担当科目について改善・工夫をした方がよい点

担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容の概要は、以下の表のとおりである。

コア科目とベーシック科目では、この設問に対する回答について、解説・演習などの時間配分や教材の改善、双方向性の導入といった点が挙げられているが、一定程度の傾向は見受けられない。これに対して、アドバンスト科目では、一定水準の知識・能力の修得という点を踏まえ、講義内容の質（詳細さ）と量（範囲）のバランスの改善を挙げた回答が多く、次いで、時間配分と教材の改善を挙げた回答が多くなっている。このような講義の内容や構成、教材、講義手法の改善・工夫に加えて、学生の多様性への配慮や学生の理解度に生じている差への対応といった講義の実施において苦慮している旨の回答が、アドバンスト科目で多くみられる。

<改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容>

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
解説・演習などの時間配分	2	4	6
講義内容の質と量のバランス	1	3	12
演習の改善	2	—	3
小テストや課題の量	2	1	1
レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善	3	4	6
学生による自発的学習の促進	1	3	1
学生から積極的な発言を引き出す取組み	1	2	1
双方向な講義の導入・双方向性を増やす取組み	3	1	4
学生の多様性への配慮	2	2	4
学生の理解度の差への対応	3	3	10
特になし	2	2	3

(3) 【設問3】に対する回答内容とその分析

【設問3】（この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか）に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

<【設問3】に対する回答内容>

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
達成できた・ほぼ達成できた	16	13	42
半分程度達成できた・あまり達成できなかった	5	10	2
分からない	—	—	1

コア科目では5科目、ベーシック科目では10科目で、半分程度しかもしくはあまり達成できなかったとの回答がある。その多くは、教員が求める修得水準まで達していない学生がいることを理由として挙げている。これに対して、アドバンスト科目では、講義内容の質と量のバランスや学生の理解度の差への対応を、講義期間中にも適時、適切にとりながら目標を達成しているもの言えよう。

(4) 教員による担当科目自己評価の特徴と今後への示唆

以上を踏まえ、アカウンティングスクールの教員による担当科目自己評価にみられる講義への取組みの特徴と今後の改善・工夫への取組みの方向性とさらなる課題として、以下の諸点が挙げられるであろう。

まず、コア科目に関しては、基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれ、知識の定着を図るべく、小テストや中間テストの実施、宿題やレポートなどの課題の賦課といった取組みが行われている。学生による授業評価アンケートの【設問 12】(この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか)について、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっているが、この点は、上記を踏まえると、やむを得ない部分でもあろうが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

理論系の科目と実践(実務)系の科目が含まれるベーシック科目では、コア科目にみられる傾向に加えて、事例・実務に則した講義を行うことや、双方向な講義を実践する取組みがみられる。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得を図ることに最も力を入れているとの回答が多くなり、また、実践性の涵養を図ることに最も力を入れたとの回答が増えている。さらに、双方向の講義を実践する取組みが多く行われている。なお、双方向性への取組みは、学生への問いかけ、課題発表、グループワーク、グループディスカッションなど様々である。

学生による授業評価アンケートでは、【設問 10】(この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか)と【設問 11】(この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか)の値が他の設問に比して低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着に重きを置き、復習を重視した取組みが行われている傾向にあり、予習、さらには自発的な学習を促す取組みが不十分かもしれない。アドバンスト科目では、双方向性への取組みによってこの点を改善することが図られているかもしれないが、予習・復習、課題、さらに学生の問題意識を喚起し自発的な学習を促す取組みを図っていくことは、1つの課題といえるであろう。

最後に、上記の講義の内容や構成、教材、講義手法の改善・工夫に加えて、学生の多様性への配慮や学生の理解度に生じている差への対応といった講義の実施において苦慮している旨の回答について、取り上げておくこととする。前者については、公認会計士を目指す学生と企業経理財務担当者を目指す学生といった目的意識の異なる学生が混在している場合の対応や、実務経験のある(社会人)学生とそのような経験のない(学卒)学生が混在している場合の対応に苦慮しているとのことである。特に、実践(実務)系の科目にお

いて、実務経験のない学生への対応が講義の実施にあたって配慮すべき要素となっている。さらに、一定水準の知識・能力の修得に力を入れているアドバンスト科目では、コア科目、ベーシック科目レベルの知識の不足・欠如が、当該講義の理解度に影響することから、これへの対応からに苦慮している旨の回答がみられる。これらのことは、担当科目・担当教員の枠を超えて、専攻全体での検討を要しよう。

6. 残された課題

A. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

(1) 学生アンケート

コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問 12 の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問 13 の「この授業は全般的に満足のものでしたか」、設問 14 の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第 3 位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

(2) 教員による担当科目自己評価

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価を、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の 4 つの科目群に分けて、各質問項目について課題を分析・考察した。

コア科目群についての「改善・工夫をした方が良い点」について、履修者数が多い科目が多いコア科目ならではのコメントとして「受講生のバックグラウンドの違いや理解度のバラつきの大きさ」、グループ発表でのフリーライダー問題が挙げられていた。受講生のバックグラウンドの違いとして、たとえば、「エクセルができない学生がいる…(中略)…エクセルのためのアシスタントが授業中ほしい」という要望もあった。もっとも入学前の特別授業でエクセルを扱っているので、受講者が自助努力をするよう履修前のガイダンス等で重ねて学生に求めるなどの改善ができると考えられる。また、必修科目の英語ではクラスごとの履修者数の平準化を求める声があった。こちらも、他にベーシック科目にあった「クラスの人数にあった大きさの教室の割り当て」の要望とともに研究科として改善を検討すべきだろう。

ベーシック科目群についても、「グループ討議をする際、積極的な受講者と消極的な受講者が存在すること」「ケースを熟読してこない学生への対応」など、コア科目でも見られた受講者のばらつきの問題がベーシック科目群でも挙げられた。それについては、「論点を絞って討議する方がいい」「早いうちに受講者のバックグラウンドを把握し、それを活かした発言を引き出すなど…(中略)…講義の双方向性を一層高めた方がいい」「解答についてもう少し説明を付け加えた方がいい」「来年は各人の進捗具合をチェックする小テストを考えて

いる。」「生徒間での討論・意見発言となる話題提示ができればと思った」などが挙げられていたが、他の教員の②「実施してよかった点」も参考にして改善できることがありそうである。

また、授業内容の配分について、「もう少し1回の講義の内容を減らし、その時間を演習時間として利用した方が良かったかもしれない」「もっと応用的な内容を取り込むと同時に、〇〇のケースも講義対象にすべきだった」「新しい事項を盛り込むと時間オーバーになりがちだったので、気を付けたい」などの改善点も挙げられた。

今年度から新しく加わった公共経営プログラムでは、「官庁等の勤務経験のない受講生」を意識した改善が挙げられていた。

③「目標が達成されたか」については、「おおむね達成された」という意見が多かったが、上記②の改善・工夫が挙げられていた通りで、改善は今後も重ねられるだろう。

アドバンスト科目群について、「授業前日までに LUNA に講義の教材や受講生の連絡事項を掲示しているが、事前に予習してくる受講生はそれほど多くない。今後はアサインメントを明確に指示することにしたい。」「事前に宿題を設けるなどにより学生の考察機会を設けたい」など学生の事前学習を促す工夫を提示した意見が多かった。

アドバンスト科目ともなると授業内容が多岐にわたることもあり、「授業内容を詰め込みすぎ、履修生とのディスカッション時間が取れなかった」「今回は少し難度を挙げたため、講義についていけないケースが散見された。復習の機会を設ける工夫が必要」「内容を絞り、Q&A の時間を多くすること」「ケースの理解について個人間のバラつきがあったので、別途時間を使った対応することが必要」などが挙げられていた。また、学生との情報共有、学生の理解度把握などのために、LUNA のより一層の活用を挙げた教員もいた。

③「目標が達成されたか」については、コア・ベーシック科目と異なり、具体的に目標に対する達成度を記載して、手ごたえを得ながらも、②の改善点をはじめとして、「今後は、テーマや問題を深堀して、解決 - 実証(調査など)を含めて「議論」を広げていく工夫を考えていきたい」「新しいことを盛り込むのが十分になしえなかった点を反省」など、その分野に即した改善も挙げている教員が多かった。

課題研究科目群について、課題研究は、課題研究基礎で研究の方法を学び、他の科目の多くを履修した後の学びの集大成と位置づけられる科目である。それに関連して、課題研究の自己評価で「課題研究基礎のうちから論文のテーマを具体化し、データ収集を開始するなど、早期に課題研究論文の準備を始めさせた方がいい」という教員がいた。同様に、課題研究基礎の方でも「課題研究と基礎の参加者が必ずしも一致していないために、目標には到達できない」と記載している教員もいた。また「事前に受けてくる科目のバラつきによって事前学習の対応を緻密に行うこと」という意見もあった。課題研究と課題研究基礎、

他の科目との連動を教員間で工夫・検討した方がいいのかもしれない。

③「目標が達成されたか」については、課題研究基礎と課題研究ともに「おおむね達成された」とする教員が多かったが、一部の学生には当てはまらないと学生間のばらつきに苦慮する教員も毎年のことながらいる。

以上を全般に見てみると、②の「改善・工夫した方がよい点」について、当専攻で授業を担当して初めてあるいは間もなくの教員の中には多くの点を挙げ、逆に本研究科での教歴が長い教員には「特になし」という記述が多いという傾向はあるものの、「4年目にして、やっと目標の授業が達成できた」「今年は〇〇をしてみた」など毎年工夫を重ねている教員が多い。今後も、他の教員の②の「実施してよかった点」を参考にするなど教員間で情報共有して改善できることはあると考えられる。もちろん、個々の学生による授業評価アンケートの結果に基づいた改善を重ねる努力も必要であろう。

B. 経営戦略専攻国際経営コース

(1) 学生アンケート

過去2年との比較をしてみると昨年2013年度は2012年度よりもすべての項目で上回ったが、2014年は平均すると2013年度レベルと同じであろう。背景には、継続的な教員のFDの努力が伺えるが、学生数が少人数のクラスのため丁寧で応答型の教育手法のため内容が学生に十分に伝わるクラスが多いので満足度が高く推移していると考えられる。また、近年の学生の国籍が多様化していること、多様な意見が集う討論形式の授業が多いので学生のクラスへの貢献と理解度の向上が工夫されているので満足度が高いとも考えられる。今後の評価の傾向を注視すべきであるが、この高い満足レベルを維持したいと考える。

一番低い評価項目は、コア科目群で質問11「you made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」の4.33、ベーシック科目群では質問7「The amount of work assigned was reasonable」の4.20、アドバンス科目群では質問4「the prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」で4.44であった。この結果を分析してみると、学生がテキストブックや教員の教材をあまりつかっていないのではないかとこの前述の疑問をさらに強める結果となった。積極的に教員がテキストを購入するように指導し、授業のクイズに使用するなどで自主勉強を促すことを工夫しなければならないかもしれない。

(2) 教員による担当科目自己評価

経営戦略専攻国際経営コース所属教員による担当科目の自己評価からは、今後の改善点として、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良かったと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変であったという点などが注目される。学生の全体数が少ないおかげか教員と学生とのコミュニケーションは活発化した一方で、学生間の議論の盛り上がりの欠如と、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員が多くいた。この傾向は昨年でも見られた。また、多国籍な学生の交流をどのように円滑に行うかとまどっているとの意見もあった。

また、国際経営コースは、コース選択の自由度が高く非常に柔軟なカリキュラム制度であるという点が強みであるが、一方でクラス内での学生間の知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、ベーシックコースやアドバンスコース選択の前の prerequisite 化を検討することや、専門性を高めるためのコース選択をどのように行うかを指導する必要があるのかもしれない。

本年度に全体コースの再編成が完成し、科目間の単位、時間の統一が行われ、ベーシックとアドバンスの科目履修の重複が来年度から解消される。このカリキュラム改編後の評価結果を分析したうえで、制度の修正をどうすべきか判断すべきであろう。

C. 会計専門職専攻

(1) 学生アンケート

学生が教員の授業内容の意義を理解していることが示唆されることから、会計専門職専攻開設以来、教育面での一定の成果が維持されていることが説明できるであろう。ただし、【設問 5】から【設問 8】の評価からは、特にコア科目について、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の質の確保と時間配分、課題の質と量については今後も継続的に注意していくとともに、効果的かつ効率的な方法で授業が実践されることが望まれる。例えば、②学生自身の取り組みで述べる、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも考慮されてもよいであろう。

(2) 教員による担当科目自己評価

アカウンティングスクールの教員による担当科目自己評価にみられる講義への取り組みの特徴と今後の改善・工夫への取り組みの方向性とさらなる課題として、以下の諸点が挙げられるであろう。

まず、コア科目に関しては、基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれ、知識の定着を

図るべく、小テストや中間テストの実施、宿題やレポートなどの課題の賦課といった取り組みが行われている。学生による授業評価アンケートの【設問 12】（この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか）について、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっているが、この点は、上記を踏まえると、やむを得ない部分でもあろうが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

理論系の科目と実践（実務）系の科目が含まれるベーシック科目では、コア科目にみられる傾向に加えて、事例・実務に則した講義を行うことや、双方向な講義を実践する取り組みがみられる。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得を図ることに最も力を入れているとの回答が多くなり、また、実践性の涵養を図ることに最も力を入れたとの回答が増えている。さらに、双方向の講義を実践する取り組みが多く行われている。なお、双方向性への取り組みは、学生への問いかけ、課題発表、グループワーク、グループディスカッションなど様々である。

学生による授業評価アンケートでは、【設問 10】（この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか）と【設問 11】（この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか）の値が他の設問に比して低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着に重きを置き、復習を重視した取り組みが行われている傾向にあり、予習、さらには自発的な学習を促す取り組みが不十分かもしれない。アドバンスト科目では、双方向性への取り組みによってこの点を改善することが図られているかもしれないが、予習・復習、課題、さらに学生の問題意識を喚起し自発的な学習を促す取り組みを図っていくことは、1つの課題といえるであろう。

最後に、上記の講義の内容や構成、教材、講義手法の改善・工夫に加えて、学生の多様性への配慮や学生の理解度に生じている差への対応といった講義の実施において苦慮している旨の回答について、取り上げておくこととする。前者については、公認会計士を目指す学生と企業経理財務担当者を目指す学生といった目的意識の異なる学生が混在している場合の対応や、実務経験のある（社会人）学生とそのような経験のない（学卒）学生が混在している場合の対応に苦慮しているとのことである。特に、実践（実務）系の科目において、実務経験のない学生への対応が講義の実施にあたって配慮すべき要素となっている。さらに、一定水準の知識・能力の修得に力を入れているアドバンスト科目では、コア科目、ベーシック科目レベルの知識の不足・欠如が、当該講義の理解度に影響することから、これへの対応からに苦慮している旨の回答がみられる。これらのことは、担当科目・担当教員の枠を超えて、専攻全体での検討を要しよう。

なお、本研究科では、FD活動として、以下に紹介するFD研修会を開催するとともに、教員の研究活動、実務活動を『ビジネス&アカウンティング・レビュー』へ掲載することにより、教員の研鑽を促すような工夫をしてきた。

以下では、前者のFD研修について、テーマと講演者を記載する。

第1回：2014年10月22日

以下のテーマで任期制実務家教員も含めた専任教員で議論を行った。

- ・研究科教員と実務家教員の共同研究の推進

第2回：2015年3月4日に開催

以下のテーマの発表とそれに基づく議論を行った。

- ・日本マーケティング学会 オーラルセッション2014 ベストペーパー賞を受賞した共著論文について
- ・schoo WEB-campus を活用したウェブ上での公開講座の試みについて

今般の学生による授業評価アンケート、教員による担当科目自己評価や試験結果を再度吟味することにより、客観的な自己評価を継続していくことが期待される。また、そうした自己評価に加えて、FD活動も継続して行われることが期待される。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
自己評価委員会

コンビーナー 前田 祐治